

# 音楽メディアの様変わり LPレコードの復権

札幌市医師会  
札幌市白石保健センター

鈴木 直己

音楽CDの売り上げが年々落ちてきているようだ。インターネットとスマートフォンの普及によって楽曲の購買方法が大きく変わり、ネット配信される作品を1曲単位でダウンロードする、月額課金で聴き放題サービスを利用するなどの聴き方が多くなっているとのこと。これらはまだ正規の料金が支払われるが、無料の動画サイトなどで手軽（おそらくはしばしば違法）な手段で済ませてしまうことも多いらしい。総じて音楽メディアの売上高は年々減少し、ライブに力を入れるミュージシャンが増えているために、公演会場を確保することがとても大変になったとも聞く。音楽教室の教材や冠婚葬祭でBGMとして使う曲にも課金するのは窮屈と感じるが、このような事情ではJASRACの危機感も分らなくはない。楽曲の違法配信だけでなく事情はテレビ放送についても同じらしく、強面で鳴らす遠藤憲一さんが「それ、違法です」と撲滅キャンペーンのCMに出演している（近頃の遠藤さんは「ドクターX」などで弱腰の人物をも好演し芸風を拓いているかに見えるので、期待される「ビビり」の効果が得られるかどうかはわからないが…）。

違法アップロードの件はさておき、アーティストがかつてはLPレコードに、今はCDに収める曲の順番は、とても熟慮して決めたものなのだろう。ミュージシャンが自らの作品を解説するのを見聞きすると、曲順にも深い意味を込めているのが分かる。

昔、レコードを聴いていた頃は盤に傷を付けると音飛びが起こってしまうので慎重に扱い、針を落とすのも少し緊張を伴うものだった（企図振戦があるととても難しい）。1曲目の演奏が始まるまでの無音部をも、かすかなノイズとともに楽しんだものだった。当時、よく聞いたビートルズのレコードはA面で最初の音が出てから表裏を置き替えてB面を聴き終わるまで、曲順と音のひとつひとつは自然に身体に沁み込んだ。かつてイントロの冒頭部（極端な場合には最初の一音）で曲名を当てる「クイズドレミファドン！」というテレビ番組があったが、ビートルズの曲に関しては自信があった。全ての曲を順番に聴き終えることが自分にとっては正しいレコードの鑑賞法と考えていた節がある。だから、聴き込まずに全ての曲を覚えきれなかったレコードは、買ってはみたものの最初の数ページしか読まずに断念した本と同じように、何だか敗北感に似た感情をもたらした。

（ふと思い出したのだが、中学の同学年で後に上智大に進んだ、とても英語ができる女子に「どうやったら英語ができるようになるの？」と尋ねたことがある。「私はビートルズを聴いているだけだよ」との返答だったので「僕も聴いているんだけどな…」とがっかりしたものだ。その後も聴き続けたいけれど、とうとう英語ができるようにはならなかった。）

とはいっても、いつも気合十分でレコードを聴くわけではないので、途中で眠ってしまうことはしばしばだった。ふと目が覚めた時に、針がレコード盤を擦るパチパチというスクラッチノイズで「またやっちゃった」と後悔するのだった。レコードプレーヤーの針はすり減ってしまうので、大切に扱うべきものだった。演奏が終わると自動的にアームが初期位置に戻る機能を持つプレーヤーもあったのだが、私のはそうではなかった。

友人とレコードを貸し借りするのもまた楽しかった。半世紀近く前に中高生だった私たちの世代にとって、当時から一枚2,500円以上するLPは宝物といっても大げさではなく、それをやりとりできるのは互いへの信頼の証でもあった。今の世でLINEの「友だち」になるよりもずっと強い繋がりがだったと思う。あれから数十年経過し、全国各地に離れ離れになった今でも、彼らと何らかの付き合いが続いているのがそれを支持している。

デジタル音源が隆盛を極める昨今だが、ここに来てアナログ音源であるLPレコードが再び脚光を浴びているらしい。伝統的な高級コンポーネントステレオで聴く方法はもちろんのこと、プレーヤーから得た信号を高解像度のデジタル（ハイレゾ）音源に変換し、それに対応したアンプとスピーカーで聴く方法とのことだ。興味津々ではあるが、自宅にあるスピーカーは40年前のものだから新たな出費が必要だし、これから高齢者の仲間入りをするわが身の聴覚を考えると、可聴域を越える広い周波数帯をカバーする音響機器にはたして意味があるのかどうか…。ご経験がある先生方にお教えいただければ幸いです。

